

岩手県ユニセフ協会 Information

いわてユニセフのつどい2015

「3.11 私たちはわすれない。。。子どもたちにしあわせな未来を」

東日本大震災から4年半、岩手県ユニセフ協会は日本ユニセフ協会と提携し「復旧」ではなく、「復興」へ震災前より、良い状態に(Build Back Better)、子どもたちが安心して戻れる、子どもたちにとってやさしい「地域」の復興をめざして取り組んできました。東日本大震災緊急支援報告や宮古市赤前保育園の様子と、大槌キッズコースあぐどうめとキャラホール少年少女合唱団のコーラス、大槌町の子どもたちが出演します。みんなで参加し応援しませんか。

日 時… **10月10日(土)** 13:00~15:30
 会 場… 盛岡市 プラザおでって 3Fホール
 (盛岡市中ノ橋通一丁目1-10 電話019-604-3300)
 参加人数… 150人 先着順
 入場料… 無料
 主 催… いわてユニセフのつどい2015実行委員会
 岩手県ユニセフ協会

今後の予定

●7月25日 ユニセフ出前講座 いわて生津軽石スワンこ～べ委員会
 ●8月16日 金ヶ崎国際交流協会ネパールの支援・料理講習会
 ●8月31日 ユニセフ出前講座 大船渡市立第一中学校1年生
 ●9月 5日 第6回運営会議
 ●10月10日 いわてユニセフのつどい2015
 ●10月12日 ワンワールドカフェ・金ヶ崎国際交流協会

東日本大震災復興支援

●7月18~19日 大槌キッズコースあぐどうめとキャラホール少年少女合唱団ふれあい交流会 発表会
 ボードゲーム会
 6月20日 日頃市コミュニティセンター
 9月12日 陸前高田市 土曜教室
 9月13日 宮古市わくわくまつり
 11月3日 宮古市マリンコープDORA
 プレーカー
 10月3日 大槌生協まつり プレーカー
 映画会
 7月~8月7ヶ所実施

賛助会員として世界の子どもたちを応援してください



ユニセフ日本委員会として、日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー(政策提言)活動を担う日本ユニセフ協会を、年会費によってご支援いただく方法です。会員登録をしていただき、日本ユニセフ協会の機関誌やさまざまなユニセフの資料を通して、世界の子どもたちのおかれている状況について理解を深めてみませんか。国内で行われるユニセフ協力活動の情報を手し、さまざまなイベントにご参加ください。

賛助会員の種類・会費・会員期間

種類	対象	賛助会員	*10以上、何でもご協力いただけます	賛助会員期間
①一般賛助会員	個人の方	1口	5,000円	入会月~1年間
②学生賛助会員	18歳以上の学生の方	1口	2,000円	入会月~1年間
③団体賛助会員	団体、法人、企業	1口	100,000円	毎年4月~翌年3月までの1年間

○震災の年に設立10周年を迎えた岩手県ユニセフ協会。記念事業として実施したユニセフ・ラブウォークは、今年5回目を迎える子どもの参加があふれています。イギリスに始まったユニセフ・ラブウォークは、参加費を途上国の子どもたちのためのユニセフ募金となります。健康づくりとユニセフ・ラブウォークが県内に広がることを願っています。
 ○ネパール大地震緊急募金に、学校・団体・個人の方々から支援が届いております。先日募金贈呈でお邪魔した陸前高田市立第一中学校の生徒会・ボランティア委員会は、「震災でお世話になったので、恩返しができないか」と話し合い、校内募金、運動会で地区のみなさんの協力、吹奏楽部の募金活動などで172,274円お寄せいただきました。戦後、粉ミルク給食の恩返しから始まった日本のユニセフ募金活動。その思いは今もつながっているのです。(事務局)

あとがき

2015年度ユニセフ募金

935万3,931円

2015年1月1日~2015年4月30日
 岩手県ユニセフ協会にお寄せいただいた募金です。払込用紙の通信欄に県協会コードK1-030と記入されたもので送金いただいた募金です。

【学校・団体他】

- 盛岡レオクラブ
- ホテルメトロポリタン盛岡
- 株ホテル花城
- 株宮澤商店
- ホテルグランシェール花巻
- いわて生活協同組合
- 東北ヤマックス労働組合
- 岩手県空港ターミナルビル㈱
- 花巻温泉㈱
- 志戸平温泉㈱
- けやきの会五十嵐 彰
- 岩手県学校生活協同組合
- 盛岡アーチェリー協会
- ファインリゾート㈱
- 株新鶴温泉
- ボイスカウト大船渡第1団

【個人】

- 堀合洋美
- 吉田敏恵
- 高橋京子
- 田中耕之助
- 中野邦夫
- 長尾静子
- 八重樺洋

2015年度第1回理事会、評議員会議報告 2015年5月29日

2015年5月29日、盛岡市プラザおでってに於いて理事13名(書面14名)、評議員7名、監事1名の出席のもと開催されました。議長に田村忠理事(岩手県中学校長会常任理事)を選出し、提案された第1号議案2014年度事業報告・決算報告・監査報告の件、第2号議案2015年度事業計画・収支予算(案)の件、第3号議案岩手県ユニセフ協会役員に関する件について提案どおり可決決定しました。岩手県ユニセフ協会は、2016年度設立15周年を迎えます。記念事業については、実行委員会を立ち上げ準備していくことになりました。



選出された役員のみなさま 2015.5.29(敬称略50音順)

役	職	お名前	役職名
顧問	問	達増拓也	岩手県知事
会副会長	源一朗	田浦源一朗	株手日報社相談役
専務理事	明宏	三岩浦渉	株手日報社代表取締役会長
常務理事	正祥	加内善祥	岩手大学学長
理事	厚美	藤井正祥	岩手県生活協同組合連合会会長理事
	久美	加内厚美	いわて生活協同組合副理事長
	公文	藤井正美	元岩手県教育委員長
	子	高林久美	いわて生活協同組合常務理事
	子	向守公文	岩手県学校生活協同組合専務理事
	子	田井田祐	岩手県ユニセフ協会花巻の会会長
	子	青木幸子	元盛岡消費者友の会会長
	子	谷田幸子	日赤盛岡市地区有功会会長
	子	谷田幸子	岩手県町村会理事
	成昭	谷木金川	岩手県教職員組合中央執行委員長
	成彰	谷木金川	社岩手県医師会会長
	茂樹	谷田英滋	岩手医科大学理事長
	樹	谷田英滋	社岩手県PTA連合会会長
	英滋	谷田英滋	株IBC岩手放送代表取締役社長
	一愛	谷田英滋	株手めんこいテレビ代表取締役社長
	玲裕	谷田英滋	もりおか女性の会会長
	恵子	谷田玲裕	NPO法人岩手県地婦人団体協議会会長
	子	谷田玲裕	岩手県ユニセフ協会花巻の会理事
	明子	谷田玲裕	岩手県市長会会長
	明治	谷田玲裕	岩手県中学校長会常任理事
	二泰	谷田玲裕	株手朝日テレビ代表取締役社長
	弘泰	谷田玲裕	株手朝日テレビ代表取締役社長
	泰和	谷田玲裕	立正佼成会東日本教区奥羽支教区盛岡教区長
	好昭	谷田玲裕	NHK盛岡放送局長
	泰昭	谷田玲裕	岩手県小学校長会常任理事
	泰祐	谷田玲裕	岩手県立大学名誉教授
	泰祐	谷田玲裕	宮沢賢治記念会理事長・花巻商工會議所会頭
	信明	谷田玲裕	秋山会計事務所会長
	勝信	谷田玲裕	岩手県消費者団体連絡協議会事務局長
	勝明	谷田玲裕	盛岡ライオンズクラブ会長
	勝工	谷田玲裕	岩手県退職女性校会長顧問
	嗣生	谷田玲裕	社日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会会长
	生博	谷田玲裕	盛岡ソンタクラブ社会代表取締役社長
	博子	谷田玲裕	岩手県私学協会会長
	子葉	谷田玲裕	国際ソロブヂミスト盛岡会長
	耕治	谷田玲裕	株川徳代表取締役社長
	智治	谷田玲裕	(社)岩手県社会福祉協議会会長
	仁	谷田玲裕	盛岡ソンタクラブ会長
	泰	谷田玲裕	岩手県労働組合連合会議長
	泰	谷田玲裕	いわて生活協同組合理事
	泰	谷田玲裕	岩手県高等学校教職員組合執行委員長
	泰	谷田玲裕	作家
	泰	谷田玲裕	岩手県農業協同組合中央会長
	泰	谷田玲裕	盛岡バイロットクラブ会長
	泰	谷田玲裕	岩手県商工会連合会会長
	泰	谷田玲裕	岩手県市町村教育委員会協議会教育長会長
	泰	谷田玲裕	社ガールスカウト日本連盟岩手県連盟長
	泰	谷田玲裕	岩手県高等学校校長会会長
	泰	谷田玲裕	岩手県青年団体協議会会長
	泰	谷田玲裕	日本ボーイスカウト岩手連盟事務局長
	泰	谷田玲裕	株エフエム岩手代表取締役社長
	泰	谷田玲裕	日本労働組合連合会岩手県連合会事務局長

岩手県ユニセフ協会ニュース No.37

unicef
Iwate Association for UNICEF



2015年4月25日午前11時56分、ネパールの首都カトマンズをマグニチュード7.8の地震が直撃。

大型地震とその後も断続的に続く余震は、8,000人以上の死者を出し、

広範囲にわたって建物が崩壊するなど、ネパールに多大な被害をもたらしています。

人口のおよそ半分が18才未満の子どものネパールでは、

深刻な被害と子どもたちへの影響が心配されています。(2015年6月25日時点)。

ユニセフは、緊急支援に必要な2015年分の資金として、

総額120万米ドル(約144億円)の支援を国際社会に呼びかけています。

ネパール地震の被害を受けた子どもたちを支援するための「ネパール大地震緊急募金」のご寄付にご協力ください。

170万人

今すぐ支援が必要な子どもの数

8,000人以上

今回の地震で犠牲になった人の数
(負傷者数: 20,000人以上)

約100万人

今回の地震の影響で学ぶ場を失った子ども
(今回の地震で損壊した教室: 約30,000)

災害後に高まる人身売買の危険

ユニセフは、ネパールの女性・子ども社会福祉省や中央児童福祉委員会、内務省、警察、入国管理局と協力し、政策や直接的な対応を通じて、子どもの人身売買のリスクを軽減する活動を行っています。

「ユニセフは2度の大地震の後、人身売買の事例が急増することを危惧していました」と、ユニセフ・ネパール事務所代表の穂積智夫は話します。「生活の糧を失い、生活環境が悪化していく状況下で、親たちは、子どもが今よりもよい生活ができるとの人身売買業者の言葉を容易に信じ、子どもを手放すように説得されてしまいます。人身売買業者は、子どもたちへの教育や食事、そしてよりよい将来を約束します。しかし現実には、多くの子どもが過酷な搾取や虐待に遭ってしまうのです」

ユニセフはネパール政府やパートナー団体と共に、子どもの人身売買を防ぐ取り組みを早急に行っています。



地震で被害を受けた自宅の前でたたずむ11歳の少年。



5週間にわたり学校が再開。ユニセフは仮設の学習センターの設置や教材の提供、教員への訓練などの支援を実施しています。



2015年7月

【発行】

岩手県ユニセフ協会

(旧 日本

第3回国連防災世界会議

パブリックフォーラム/ユニセフシンポジウム

今回で3回目となる国連防災世界会議が3月14日(土)から18日(水)に宮城県仙台市で開催され、国際的な防災戦略について様々な議論がなされました。日本ユニセフ協会は、パブリックフォーラムとして、14日(土)の午後、岩手県、宮城県、福島県の3県のユニセフ協会と共にシンドジウムを開催し、子どもの視点での復興と防災の取り組みの必要性を訴えました。

「遊び」「居場所」そして「参加」

ユニセフ事業局長エドワード・チャイバンの基調講演ではじまったシンポジウムは、心理社会的ケア、子どもの保護、冒険遊び、まちづくりの各専門家をパネリストに迎え、「遊び」「居場所」そして「参加」をテーマにディスカッションが展開されました。

「五感と身体をフルに使い右脳に直接働きかける『遊び』は、子どもに本来備わっている回復力(レジリエンス)を引き出すためにとても重要」、「身近なおとなが寄り添い、安心感やつながりを感じられる『居場所』があることで回復力はさらに強くなる」、「そのためにはおとな之心を守ることも必要」、「元気を取り戻した子どもの姿は周りのおとなも元気にし、それは地域を回復させる力にもなる」、「東日本大震災直後に子どもたちが積極的に避難所運営に関わった姿があったように、地域に関わっていきたいという子どもの思いを引き出すためにさまざまな『参加』の機会が必要」などの意見が提出されました。

これを裏付けるように、岩手県や宮城県で震災を経験しながら子どもの支援に関わっている方々や大槌町の中学生も自らの体験を話してくださいました。会場に集まった約700人の参加者は、みなさんの発表に熱心に聞き入っていました。

震災の経験を未来につなげる子どもたち

シンポジウムのおわりに、福島県相馬市立飯豊小学校の6年生が、地域の防災意識を高めるために取り組んできた防災学習の取り組みを発表しました。「私たちが発信していく。災害に強い国、日本!」という言葉で締められた発表は、力強く頼もしいものでした。

シンポジウム会場に隣接する仙台定禅寺ビルでは、「ユニセフ@定禅寺ギャラリー」が設置され、震災の記憶を1000年先に伝えるため宮城県女川町の子どもたちが設置を進める「いのちの石碑」の実物大パネルや仙台市七郷小学校の6年生が考案した「未来の七郷」の模型が展示され、子どもたちが自らの言葉で、活動の報告や未来のふるさとへの想いを語りました。時折冷たい風が吹く2日間でしたが、通りがかりのたくさんの方が足を止め、子どもたちの発表に耳を傾けていました。そしてその横には、手作りの遊び道具を積んだ「ブレーカー」が登場し、小さな子どもとお年寄りが一緒に遊び姿もありました。

どんな場所でもどんな時でも必要なこと

世界の自然災害の被害者の半数以上を占めるのは子どもたちです。子どもの心を守り、生きる力を育てる「遊び」「居場所」そして「参加」。これらは自然災害などで一瞬にして日常を奪われた子どもたちが日常を取り戻し、自らの回復力を引き出すために重要な鍵を握ります。またそれは、必ずしも「復興」や「防災」ということだけでなく、国や地域を問わず、どんな場所でもどんな時でも、社会を維持・発展させてゆくために、すなはちレジリエントな(Resilient=迅速でしなやかな回復力のある)社会をつくるために必要な視点ではないでしょうか。震災からの復興を支援する取り組みとして、また、「次」への備えのための取り組みとして、日本ユニセフ協会はこれからも子どもたちのための取り組みを続けてまいります。(公財)日本ユニセフ協会



©日本ユニセフ協会
エドワード・チャイバン ユニセフ事業局長による基調講演



©日本ユニセフ協会
ユニセフの東日本大震災緊急・復興支援に携わった4人の専門家たちが、各自の視点からその活動を報告



「ユニセフ@定禅寺ギャラリー」で活動発表を行う女川中学校の卒業生たち



福島県相馬市立飯豊小学校の6年生による発表

東日本大震災支援活動

岩手県から2人の報告～震災後のあゆみ～

パネルディスカッションでゲストスピーカーとして発表した、宮古市赤前保育園主任保育士佐々木未緒さんは、当時の園児や母親の様子と、これからも寄り添いともに生きていくたいとお話しされました。また、津波で父親を亡くし、祖父母が行方不明になっている大槌町佐々木陽音君(中1)は、今は人を想いやる気持ちが少しですが生まれてきたとお話し、「おとう…俺は七福神(踊り)を続けたい」と心境をお話ししました。

岩手県ユニセフ協会から、当日30名の役員・ボランティアスタッフ、CAP岩手のみなさんが参加しました。
岩手県ユニセフ協会 藤原綾子



“今こそアリスにCAPを広げよう！” 岩手県CAP連携会議

2015年4月19日、宮古市マリンコープDORAでCAP連携会議を開催。CAP(子どもへの暴力防止)ワークショップは、震災以降日本ユニセフ協会とJ-CAPTAの連携事業としてすすめており、震災後にCAPプログラムをすすめるグループCAPアリス(山田町)が立ち上げ、県内ではCAP岩手(盛岡市)とともに活動しています。

J-CAPTA 理事竹之下典祥さん(盛岡大学児童教育学部准教授)、木村里美事務局長、小野道子ユニセフ子どもの保護アドバイザーとCAPアリス、CAP岩手、県ユニセフ協会のメンバーが参加し、交流と今後の取り組みを話し合いました。～沿岸の子どもたちにCAPをプレゼントしよう～



▲親子で参加の小学生

さわやかな風をうけながら 第5回ユニセフ・ラブウォーク in いわて

5月24日(日)さわやかな青空の下、第5回ユニセフ・ラブウォークin いわてが開催されました。盛岡城跡公園広場に集まった参加者220人、盛岡市ウォーキング協会の藤澤事務局長のコース説明とストレッチ体操、大学生のみなさんのエールを受けて、10kmコースと5kmコースに分かれ中央津川遊歩道に向かって元気にスタートしました。

当日は、盛岡市・一関市・久慈市・花巻市・滝沢市・八幡平市・宮古市など7市、矢巾町など3町から参加しました。小学生・中学生・高校生・大学生・専門学校生が60名、フィリピンのブルーブー21名も参加し、楽しい会話をしながらウォーキングしました。

中津川にかかる14の橋、秋には鮭も遡上する清流の遊歩道、さわやかな風をうけながらウォーキングを楽しみました。「楽しかった」「はじめて遊歩道を歩いた」「盛岡の良さを認識した」など感想が寄せられました。

全員ゴールし、参加費はユニセフ募金として世界の子どもたちのために使われます。募金額は81,300円でした。ありがとうございました。



▲橋の景観を楽しみ、遊歩道も長蛇の列



▲大学生のみなさんの元気なエールをうけて



▲盛岡市ウォーキング協会・ユニセフの旗を先頭にスタート



▲お友達と参加の中学生・高校生



▲子ども参加賞や完歩賞を渡すボランティアスタッフ

日本ユニセフ協会創立60周年



©日本ユニセフ協会

岩手県で最初の支援校

当時、大慈寺小学校の教員をしており給食指導に当たりました。船便で送られてくる脱脂粉乳は、最初の頃は力カチ力で固まっておりノミと槌でたたいてください、すり鉢で細かくすってお湯で溶かして飲ませました。

大変な重労働で微粒子のミルクにし、なかなか溶けないので苦労しました。

その後、県教育委員会に移り学校給食の指導にあたりました。県北の小学校で脱脂粉乳を飲んで体内に発疹が出たという現地に行きました。うるしてかぶれたのを脱脂粉乳を飲みたくなための理由にしたのでした。給食担当者に作り方を見せてもらい鍋に焦げついで焦げ臭いミルクだったのです。作り方を指導し同じミルクと驚かれました。

ミルク支援校とそうでない学校の体重・身長の定期的な測定で、子どもたちの体格は向上し効果がでてきました。今、私たちは恩返しをしなければならない。



岩手県盛岡市 大慈寺

©日本ユニセフ協会

2005年10月2日 ユニセフのつどい講演抜粋
県ユニセフ協会評議員 及川サチエさん(岩手県退職女性校長会顧問)